

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 14日
- 事業名 : 快適レスパイトの実現
- 資金分配団体 : 原田積善会
- 実行団体 : 東大寺福祉事業団

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
「話せる場」を開催することを事業対象者、及び事業対象者を支える関係者（ソーシャルワーカー・訪問看護ステーション・医療機関）に知らせる。	チラシ配布の協力者数 Facebook等の発信回数 Facebook等の「友達」の数	チラシ配布の協力者が増える 週に1~2度、Facebook等を更新する Facebook等の「友達」の数が増える（200人） Facebook等の「いいね」の数が増える（3000いいね）	3年後	チラシを地元の協力者と作成する話があったが、実行できていない  SNS未開設 （頻繁に更新しないSNSは開設しないほうがよいのでは？との意見があったため）	3
「話せる場」を開催する。	開催頻度	週3回	3年後	新型コロナウイルスで開催できていなかったが、9/18に試しに1家族のみで対面でのイベントを開催。（作業療法士の指導で、事業対象児とその家族で「アート作品」を製作） 今後、対面でのイベントを企画予定。	3

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
「話せる場」に足を運んでもらえるよう、オンラインを利用したセミナーを開催する。			3年後	未実施（セミナー登壇者の選定が困難で前に進めることができていない）	3
近鉄奈良駅周辺エリア（きたまち・ならまち）の商店主や公共交通機関（近鉄奈良駅・JR奈良駅）の従業員に事業対象者に関する啓発活動を行う。	啓発資料の配布数 啓発映像の視聴回数 (youtube)	対象地域の5割の店舗に配布 公共交通機関の職員の2割の手に届く 対象地域の3割の店舗数と同じ視聴回数	3年後	きたまちエリアの協力の元、7/2にオンラインイベントを開催。大学生等の積極的な参加が見られた。	3
本事業に協力的な店舗を事業対象者と共に訪問する。	協力店舗数と訪問回数	きたまちエリア 20 店舗 ならまちエリア 30 店舗 各 2 回以上の訪問（事業対象者が同一家族か否かは問わない）	3年後	協力店舗数は10店舗程度。 オンラインイベント時、2店舗と地元のお寺を訪問。 ならまち未着手。	3
事業対象児が今よりも快適な生活を送るための生理的指標を開発する。	調査に参加する事業対象児の数／調査研究に参加する協力者（専門職）の数	事業対象児 15 名 研究協力者 5 名	3年後	打合せ回数 22 回（7/11 時点） 事業対象児のバイタルデータを記録するための環境センサーを病室に設置するための相談をしている。	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
7/2のイベントに関しては、スマホを利用し、きたまちの店舗やお寺から生中継を行うことができた。

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

2.広報制作物等

3.報告書等

- ・ 2022年3月27日開催「第11回 難病や障害を子供とその家族への支援を考える市民交流セミナー『地域に開かれた療育病院をめざして』」抄録集

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	実施状況の適切性	理事長 1 名	東大寺福祉事業団、理事長
内部	実施状況の適切性	職員 1 名	東大寺福祉事業団、総務部係長
外部	実施状況の適切性	外部協力者 1 名	きたまちコンセント副委員長
内部	知見の共有・活動の改善	職員 1 名	東大寺福祉事業団、総務部係長
内部	組織基盤の強化	職員 1 名	東大寺福祉事業団、総務部係長

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
事業対象者（主に重症児の母親）	話せる場の利用後の満足度	利用前に比べて増加	2024.3	事業対象者がいきなり何でも話す場を作ることが難しいことは事業を通じて痛感したが、なんらかの場を持つことが、会話の促進などにつながることは確信している。新型コロナウイルスの脅威が少なくなってきた様子もあり、今後はアートや音楽等、場づくりや機会創出の糸口となるようなものを折りませながら、より安心して話せる環境を整えていく。
商店主など協力者	活動の理解度	事業対象者の存在を知る商店主が9割	2024.3	イベント開催時に、協力店主等の気配りが感じられた。活動を理解してもらえていると考える。実際に対象児や家族と対面する機会（イベントなど）を増やすことで、より広く活動を知ってもらえるようにする。
（地域に出ていく）事業対象者	外出の頻度	以前より増加	2024.3	対面イベントを再開し、活動頻度を上げていく。

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
重症児（の快適さ）	体調不良の頻度	減少⇒快適につながる生理学的基準が明らかになる	2024.3	重症児のバイタルサインを本人に負担をかけずに収集する方法を考察している。具体的な装置や方法の提案もされているため、施設内の一角に、バイタルサインを記録できる部屋を試作する。
重症児の家族（の安心度）	養育上の安心感	安心感増加⇒快適な環境整備の方法論が明らかになる	2024.3	重症児の快適は親のQOL向上に直接つながると考える。上記、バイタルサインを記録できる部屋を試作し、バイタルサインを取り、重症児の快適を探索する。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	定量的な目標の達成ができていないが、進んでいる方向は間違っていないと考える。

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	事業の運営管理体制（進捗管理、人員体制）の計画に問題はないか。	人員体制に問題あり	計画していた活動を思うように進めることができなかった。その要因として、人員体制に問題があるのではないかと考える。特に継続的に回数を重ねるためには、オンラインであれ、対面であれ、それを支える人員（スタッフ）の人数確保が不可欠であることが分かった。元々、当法人で行っている「奈良親子レスパイトハウス」の活動には、ボランティア登録している者も多数居る。コロナウイルスのため、これまでは声掛けを行ってこなかったが、対面での活動が増える場合は、彼らに声をかけて人員の確保を行う。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	予期していなかったトラブルや課題にどう対応しているか。	事業対象との間には特にトラブルはない。オンライン利用時の機器に関するトラブルはあった。	事業対象とのトラブルは事前に利用者を限定することで現在は発生していない。今後、参加者の対象を拡げた際には、トラブルの発生も考えられる。トラブルの発生につながる可能性のある事柄をできるかぎり予想する。オンライン機器のトラブルへの対応は、新しい機器の導入が効果的であることが分かった。高額な機器を導入する必要はないと考えるが、可能な限り機器のバージョンを上げていく。
組織基盤強化・環境整備	人材は育っているか。	不十分	活動への参加を希望する人材は居るが、活動の場（イベントなど）を提供することができていないという現状を把握している。 <b>参加希望者のニーズやスキル等に配慮しながら、活動の場所を創出し、役割分担を促進していく。</b>

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

短期アウトカム4「近鉄奈良駅周辺エリア（きたまち・ならまち）の商店等を事業対象者が訪れる」については、コロナ禍により「オンラインまち歩き」に変更を余儀なくされたが、

キーパーソンの関与がアウトカムの状態変化への貢献要因となった。きたまち在住で奈良の魅力を30年来発信してきたフリー編集者が、親子レスパイトの活動に共感し地元の大学生を巻き込んで本事業の実現に導いた。自団体内部の人員不足を補うキーパーソンとの協働が、アウトカムの状態変化に寄与した。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

地元の大学生の参加



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>対面イベントの開催や協力者の活躍の機会の創出等を行い、すでにアプローチできる潜在的な協力者との役割分担を進めていく。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

新型コロナウイルスの状況について、陽性者の全数報告の必要がなくなったことを受け、事業後半では、対面の活動を増やしていきたい。  
睡眠評価について、具体的な機器の導入を行い、バイタルサインの記録を行いたい。

添付資料 『きたまちレスパイトタウンプロジェクト（2022.7.2 実施）』のふりかえり



20220829きたまちレ  
スパイトタウンプロジェ

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）